

日本SOD研究会報

特集 丹羽療法 治療レポート

気づかれぬまま増えている 甲状腺疾患とSOD

眼と喉を注意して見る

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住 所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.sod-jpn.org/>

SOD愛飲者 インタビュー

動悸、発熱、めまい、ついには 無顆粒球症で救急車に

甲状腺疾患薬の副作用の連鎖

香川県 木村祥子さん(51歳) 美樹さん(25歳)

今回の愛飲者インタビューに登
場してくださったのは香川県にお
住まいの木村さん親子です。小さ
いながらも人気の美容院を営む祥
子さん。お嬢さんの美樹さんも高
校卒業するとお母様と同じ美容師
の道を選択し、美容学校へ。そう
して数年前から親子でいっしょに
忙しく立ち働いています。同じ仕
事場で親子で仕事ができ、羨まし
いかぎりの木村家です。

しかし、そんな木村家にも受難
の時期がありました。それは6年
前のこと。お母様の祥子さんが目
の奥の血管が詰まる海綿静脈洞瘻
という原因不明の難病を発症した
のです。

「当時、海洋深層水というのが流
行っていました、うちでも健康に

いいんじゃないかと1ダース購入
したんです。そのときに水が混濁
していたのでちょっと変だなとは
思ったんです。でもそういうもの
だと思って飲んだら、数時間後か
ら激しい嘔吐と下痢に襲われたん
です。病院に行くことも思ったん
ですが、幸いなことに2日くらい
で治まったのでそのままにしてい
たんです」

今思うと、海洋深層水そのもの
がいけなかったというのではなく、
おそらく飲んだ品物が古かったか、
たまたま微生物が混入していたか
ではないかといえます。この事件
がひとつの導火線になり、木村さ
んの体に巣食っていた病が表に噴
出することになったのです。

数日後、目に異常が出たのです。

「物が二重に見えるんです。充血もしていたので、疲れから結膜炎か何かになったかなと思って、眼科に行っただんです。美容師をしていますので、目と指は大切ですから」

眼科では、おそらく結膜炎なので、抗生剤系の点眼でしばらく様子を見ましようという診断でした。ところが物が二重に見えたり、かすんだりという症状はいつまでたっても良くなりませんでした。

「1か月くらい様子を見たんですが、ぜんぜん良くなりません。それどころか吐き気までして、食べ物食べられなくなり、まっすぐにも歩けなかつたんです。これからは目からきているものじゃない、ひよっとしたら脳になにか障害がきたのかと思いましたね。それで大きな病院で検査してもらったんです」

大きな病院の脳外科に行くと、たくさん患者さんが待っているにも関わらず、木村さんの様子を見た看護師さんが先生に伝え、真っ

先に診察してもらったそうです。

見た目にもこれは大変と分かるくらい症状は悪化していたということです。そしてMRI検査で脳の断面を細かく見てもらったところ、目の奥の血管が詰まっている海綿静脈洞とこのことでした。目の奥にある海綿静脈洞には眼球の運動をつかさどる脳神経が走行しているのですが、その血管が詰まり、神経の運動を阻害すると、眼球運動障害や頭痛に見舞われるのです。眼球がうまく動いてくれないので、すから、平衡感覚もなくなり、歩行障害も出ます。そうすると船酔いしているように絶えず吐き気もして、とてもつらい状況になります。

「その場で入院でした。20日間ずっと点滴をしていました。本当は1か月入院したほうがいいと言われたのですが、入院してすぐよくなるものでもなかったもので20日で退院したんです。目は、右目が圧迫されていて動かないんです。だ

から斜視みたいな感じでした。とにかく吐くし、食べられないし、げっそり痩せてしまいました。ええ、SODを飲むまでこの状態は続いてましたから4年くらいずっとでした」

その間に処方されたお薬は血液サラサラにする効果のあるワーファリンでした。ワーファリンは丹羽先生もそれほど副作用を心配する薬ではないといわれています。しかし、原因不明の難病に数年間悩まされ、かなり精神的には弱っていたといえます。仕事も入院期間を含め半年近くもお休みしたそうです。

薬の副作用で 緊急入院

右目が動かない状態で美容師の仕事は大変だったと思います。そんな木村さんを更なる試練が襲います。

「2年前に今度は甲状腺機能亢進症になったんです。足がパンパンに腫れ、心臓がドキドキして、脈拍

が1分間で140にもなる。最初は、ちようど生理がなくなっていたし、更年期かなと思ったんです。体重が減って、暑くないのに汗をよくかくんです。それで病院に行って血液検査などをしてもらったんですが、心臓も肝臓も悪くはないといわれました」

それでも体調はすぐれず、これは更年期だから婦人科で乳がんや子宮ガンなどの検診を受けてみようと思いついた木村さん。そこで、乳がんの検診のついでに先生が甲状腺も診てくれたところ、甲状腺機能亢進症、いわゆるバセドウ病（※注1参照）だという結果が出たのです。この疾患の症状は、動機、過剰な発汗、体重減少、喉の腫れなどで、喉の腫れをのぞけばまさに木村さんの症状とピッタリと一致します。

「私の場合は喉の腫れがなかったのでバセドウ病が分かりにくかったです。それではメルカゾールという甲状腺機能亢進症の薬を

飲み始めたんです。そうしたらまたしても体調が悪いんです。風邪のような熱っぽさとだるさが続いたんです。それで病院で診てもらったんですが、甲状腺は大丈夫と言われ風邪薬をもらって帰ったんです」

診察の2日後、木村さんは突然のめまいに襲われて倒れ、救急車で搬送されたのです。

「目がぐるぐる回って、目の前が真っ暗になりました。救急車でも病院をたらいまわしにされて、5件目くらいでやっと内科の先生が診てくれたんです。そこでいつも飲んでる薬、メルカゾールのことを伝えたら、先生がもしかしたら薬の副作用からなる無顆粒球症（※注2参照）ではないかと」

またしても入院。しかも無菌室に1週間も。そこで先生からはメルカゾールなどの甲状腺機能亢進症の薬はしばらく飲むのをやめるように言われました。

「退院してから1か月は薬をやめて

調子が戻ってしまいました。それで病院に行ったら、メルカゾール（※注3参照）は合わなかったので別の薬、プロパジールというのを処方されたんです。そしてまた、飲み始めて1週間くらいして動悸や発熱がすごくてしんどいんです」

SODはなによりも副作用がない

また無顆粒球症になって倒れるんじゃないか、そうになったら命すら危ぶまれるのではと不安な日々を送っていた木村さん。そんなときに、彼女のお姉さまが知人からSODのことを聞き、ためしに飲んでみたらどうかと勧めたのでした。実は木村さん、SODのことは以前から美容院にパンフレットなどを送ってもらっていて名前くらいは知っていました。しかし、何がどういいのかも分からなかったそう、よく中身まで読んでいなかったのです。

「勧められて初めて資料を読んだ

ら、副作用がないというのが書かれていて、これはなんだかよさそうだと。でも、こういうのはなんでもよく書いてあるからと半信半疑でした。ただ、あまりにもしんどくて、藁にもすがる想いで騙されたと思って飲み始めたんです」

1日に4包、欠かさず飲み始めて1か月。

「なんか最近、体が軽くなったな、発熱もないし、あれっ？ と気づいたのが1か月くらいしてからだったと思います。これは確実にSODが効いているんだと実感しましたね。もうそこからはどんどん体調が良くなって、副作用がまったくなくなりました。おまけに甲状腺機能の数値も平常になっていて、驚くやら嬉しいやら。あと、動かなくなった右目も動くようになったんです。SODってすごいですよね」

今もプロパジールは飲んでる木村さん。しかし、もう、副作用の不安はありません。もちろんS

ODは欠かさず4包ずつ飲んでいくとか。

「おかげで毎日元気に美容師の仕事をしています。ほんとうにSODに出会えて幸せです。ありがとうございます」

はじけるような喜びの声を聞かせていただき、こちらこそ嬉しくなります。それにしても大変な想いをされた10年間でした。

便秘から痔になり手術まで

そして木村家にはもう一人、SODを愛飲されているお嬢様、美樹さんがいます。彼女からも、そのキッカケや抱えていた問題を聞いてみました。

◆丹羽先生診察ご希望の方は御紹介、御予約いたします。

※自由診療となります。

丹羽メディカル研究所

☎ 0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

☎ 03(5787)3498

まで お電話ください。

「私の場合は、深刻な便秘ですね。子供のころからずっとですから、20年抱えていた悩みでした。3、4日便通がないのは普通で、1週間ないこともしょっちゅうだったんです」

女性には多い悩みのひとつがこの便秘です。女性はホルモンの関係上、男性よりも便秘がちになりやすいそうです。また、ストレスや立ちっぱなしの仕事などからも便秘になります。また、運動不足や野菜、食物繊維不足なども原因のひとつです。

「できる限り食物繊維のある野菜を食べるようにしていましたし、水も多めにのんでいたのですがいっこうに良くなりなくて、そのせいか肌にはいつも吹き出物が出ていました」

そんななか、美容師として働き始めた美樹さんが二十歳のときでした。

「働き始めたら痔になったんです。ひとつふたつといぼのような痔が

出では引っ込みの繰り返し。立ち仕事ですから、出ているときはズキズキ痛んで、そのせいで気が散るんです。いよいよがまんできなくて仕事にならないと、去年の秋に手術をしました」

美樹さんが痔をどんどん悪化させているとき、ちょうどお母様の祥子さんは甲状腺機能亢進症の副作用で大変なときでした。

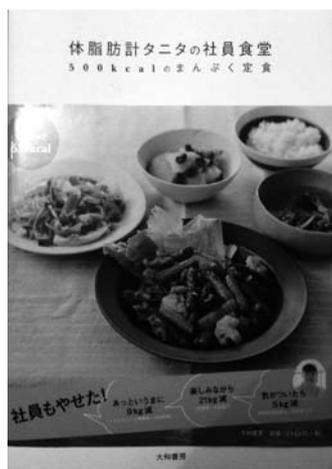
「母は本当に大変そうでした。そんな母がSODを飲み始めてからすぐ元気になったものですから、これって、便秘にもいいんじゃないかと思ひ飲み始めたのが去年の6月でした。そしたらいきなり便通が良くなったんです。やわらかくてスルツと出るんです。(笑)こんなにスムーズな便通なんて物心ついた時から体験したことがないくらい。嬉しかったですね。今では毎日この調子です。食間と寝る前に飲むと効果てきめんです」

気づくと肌の調子も良く、いつも出ていた吹き出物もすっかり影



「粗食のすすめ 実践マニュアル」
幕内秀夫著 (講談社刊)

「体脂肪計タニタの社員食堂」
(大和書房刊)



猛暑も一段落し、いよいよ食欲の秋がやってきました。夏バテぎみで弱っている胃腸にいきなりいろいろな食べ物を放り込むと、大変なことになってしまいます。そこで今回は、体に優しい、今話題のレシピ本をご紹介します。

ひとつは帯津三敬病院でも患者さんの食事の指導などを行っている管理栄養士の幕内先生の本。粗食のすすめ

めシリーズでおなじみの先生が今回は84食分の健康メニューを紹介してくれています。この本は、まさに医学的立場からも実証済みの究極の健康メニューと言えます。

もう一冊は、ベストセラーになっているタニタの社員食堂のメニューです。体重計の会社の社員が肥って不健康ではいけないと、11年前から社員食堂でふるまわれている、健康メニューレシピです。うれしいのは、見た目もボリュームもあって、カロリーはたったの500kcal以内に収められているということ。この社員食堂のおかげで風邪をひく人が激減し、体重が減り、コレステロール値や体内年齢がぐっと若返ったそうです。

をひそめたそうです。

「吹き出物のせいで鼻の周りや額があざのように黒ずんでいたんですが、SODを飲み始めてからその黒ずみが薄くなったんです。もうほとんどないくらいに明るくなつて、すっぴん自慢できそうです(笑)」

SODで肌のシミや吹き出物が消えたという話は、ほんとうによく耳にします。血の巡りが良くなり、紫外線や排気ガスなどで生まれる活性酸素を除去してくれますから、おのずと肌がきれいになるのもうなずけます。

親子で快く取材に応じてくださつてありがとうございます。

最後に去年の会報でも紹介しましたが、甲状腺機能亢進症について丹羽先生にインタビューした記事を再度紹介します。同じような疾患に悩まれている方の参考になればと思います。

——甲状腺疾患の治りが悪いとい

う話があるそうですが

「いや、そんなことはない。うちの診療所では治らない人はほとんどいませんよ。がんでも他のがんに比べると、進行が遅いのが特徴。普通のがんは手術をすると全部切り取らないといけない。取り残すと、残ったがん細胞が暴れて増殖してしまう。しかし、甲状腺は喉にあつて、乳房といっしょで身体



の中で、内臓にはないからあまり他の臓器に悪さをしないんだ。だから進行が遅く、わりと生きられるんです。亡くなるのも200人に一人くらい。そういう場合は、ゆっくり悪くなって、最後は肺に転移してしまう例ですね。肺に転移してしまうと、普通は半年、1年、1年半でみんなだめになる。しかし、

甲状腺がんは肺にきても6、7年は生きられるんです。それくらいゆっくりと進むがんなんです。あと、甲状腺がんは手術で全部、摘出しません。あえて少し残すんです」

——それはどうしてですか？ 大丈夫なんでしょうか

「すべて摘出してしまつとホルモンが出なくなつてしまつから。甲状腺ホルモンというのは、不足するとおたまじゃくしがカエルにならないように、成長に大切なものなんです。あと、身体全体の新陳代謝と密接なつながりがあるから、欠かせない。だから、たとえがんになつても全部は摘出しません。わざと取り残しをします。そうすると普通のがんは残つたがん細胞があればだすんだが、甲状腺は少し残してもあまりあばれない。でもしばらくするとがん細胞は大きくなる。そうしたらまた手術で取ればいい。それを繰り返すことができるんです」

——なるほど。がんまでは、いつていない甲状腺疾患は薬で治るといふのは

「甲状腺のなかでホルモンの働きが強くなるのがバセドウ病。これはメルカゾールという、甲状腺の働きを抑える薬をちゃんと使えば4、5年で治ります。働きを抑えるからあまり良くはないが、これは効きます。ただ副作用もあるので、SODと併用すればなおよし。そうすれば薬の副作用はなくなるから。がんや膠原病、難病なんかは薬を使つてもなかなか治らないけれど、バセドウ病は薬で治ります」

——SODの効果は

「もちろんあります。薬とSODを飲んでいれば安心。SODは必ず飲むことです。甲状腺疾患はそんなに致命的な病気ではないから。ただ、甲状腺に異常がある人はものすごく多い。気づかない人もいるから、潜在的な人も含めるとめちゃくちゃ多い。女性で喉仏がやや目立つとか、目が出てきたら検

「査をしたほうがいい」

※注1：甲状腺機能亢進症(バセドウ病)

歌手の絢香さんやタレントの小松千春さんなどもかかっている疾患、バセドウ病は、日本語で甲状腺機能亢進症といい、普通、甲状腺は触れることができません。甲状腺が触れることができた場合は、何らかの甲状腺の病気を持っている可能性が高いといえます。この甲状腺は身体の中でどんな役割をする器官かという点、簡単に言うと、元気の素であるホルモンを作っているところなのです。甲状腺ホルモンのが多すぎると、体重が減ったり、手がふるえたり、脈が速くなったり、動悸を感じたり、暑がりになり汗をかきやすくなり、イライラしたり、下痢になります。一説には20人に一人はバセドウ病など、甲状腺に異常があるとも言われております。甲状腺の病気である事に気づかず苦しんでいた、また容顔や性格の変化にとまどい、悩んで

いる方が少なくないようです。

一般的な治療法は、甲状腺の機能を抑える薬(抗甲状腺薬)が中心です。副作用は、白血球減少と発疹。「MMI(メルカゾール)」と「PTU(プロパジール)」が使われます。治療は2年以上行いますが、抗甲状腺薬を徐々に減量し、1日おきに1錠程度の内服で、血液検査を行い、6ヶ月間甲状腺ホルモンが正常なら、薬は中止できます。しかし、抗甲状腺薬で治療効果が得られない場合は手術や放射線治療が必要となります。この「バセドウ病」は、放置すると、ストレスで発熱、意識消失したり、不整脈を起こし、血の塊が脳梗塞を起こしたりして命にかかります。バセドウ病は自然には治りません。

※注2：無顆粒球症

白血球の顆粒球(好中球)が500/μL以下まで減少する病気です。原因は抗生物質、鎮痛解熱薬、抗がん薬、抗甲状腺薬(メ

ルカゾールなど)、抗リウマチ薬、抗糖尿薬などの毒素によって、骨髄で作られる顆粒球の産生に異常がおきたり、寿命が短縮することが考えられています。特にアレルギー体質や特異体質の人に多く、体内で防御機構として働いている顆粒球が減少するため、感染しやすくなります。初期症状は高熱、倦怠感、悪寒、咽喉痛、頭痛など風邪に似た症状があらわれ、重度になると肺炎や敗血症などを起こす危険な病気です。

※注3：メルカゾール、プロパジール

どちらも甲状腺機能亢進症に処方される薬。メルカゾールの方がプロパジールよりも、効果が強く、

作用時間も長い。プロパジールの利点の1つは、授乳中の場合、母乳に分泌されないことから、授乳を行う上で特に制限を受けないことが上げられます。副作用として無顆粒球症や肝障害・蕁麻疹などがあげられます。ですからどちらの薬剤も、甲状腺専門の医師によって注意深く投与が行われるべき薬剤です。

これらは甲状腺機能が正常範囲に維持されるように、定期的に検査を行いながら、投与量を調節していきます。服薬しなくても甲状腺機能が正常を維持できる状態に至るまでには、約3年間の服薬継続を要します。

SOD様作用食品
体験者の声を
お聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛
TEL 03-5787-3498

までご一報ください。